

(3) 高清水

大内峠は拾耆曲目 チョイト登ればオサト茶屋」

「大内峠のおさんが茶屋は、酒は高売り 高清水」

この唄は、大内宿に古くから伝わる盆唄の一節で、この大内峠を登り下りした馬子達が唄った歌であると言われています。この歌にある「高清水」とは、この湧水を指したもので、日銭を稼ぐことで生計を立てていた馬子達にとって、茶屋で出されるものは予想以上に高く、この唄は高清水にかけて茶屋を皮肉ったものだったのでしょう。

ところでこの往還道は、三郡境の塚から二筋に分かれ、大内峠の茶屋前で再び一本となっていました。しかしこの高清水から三郡境の塚区間は、現在進められている新しい下野街道ともいうべき県道下郷・会津本郷線の改良工事のため開削され道筋は消えています。このように峠道の道筋が二筋に分かれる箇所は、火玉峠や中山峠にも見ることができ、下野街道は峠付近で新旧二本の道筋があるのか、あるいは当初から峠道は二本で整備されたものなのか、疑問と興味が残るところである。

